

1 調査名称：金沢都市圏総合都市交通体系調査

2 調査主体：金沢市

3 調査圏域：金沢都市圏

4 調査期間：平成21年度

5 調査概要：

近年、自転車は、環境負荷の低い交通手段として見直されているほか、健康志向の高まりや市民生活を取り巻く社会環境の変化を背景に、その利用ニーズが高まっている。

本市では、平成19年度に策定した「新金沢交通戦略」において、「自転車の走行環境改善」や「歩行者の安全性を確保するためのルールづくり」等を施策として位置づけており、歩行者や公共交通を優先したまちづくりを目指すことを基本的な考えとしている。また、平成26年の新幹線開業を見据えた「金沢魅力発信行動計画」では、金沢駅からの二次交通の充実として、「金沢駅からまちなかへ安心して通行できるルート」や「公共レンタサイクルシステムの導入検討」「観光駐輪場の整備」などを掲げており、自転車を都市交通の一つの重要なアイテムとして、位置づけている。これらを実現するため、自転車利用環境改善のためのトータルプランとして、「まちなか自転車利用環境向上計画」を策定する。

I 調査概要

1 調査名：金沢都市圏総合都市交通体系調査

2 報告書目次

1. 報告書

【まちなか自転車利用環境向上計画（基本計画）】

1. 計画策定の趣旨
2. 自転車に関する全国的な動向
3. まちなかにおける自転車利用環境の現状・課題
4. まちなか自転車利用環境向上の基本的な方針
5. 計画の実現に向けて

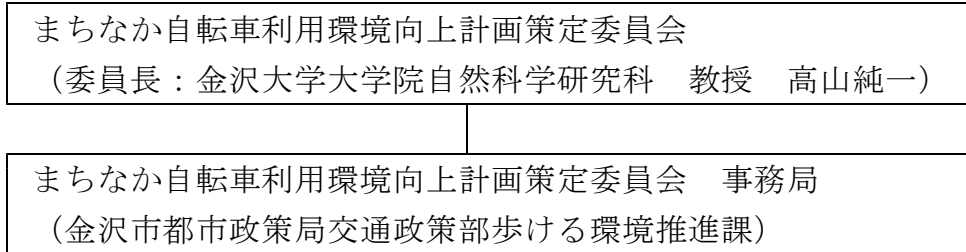
2. 第1回委員会資料

3. 第2回委員会資料

4. 第3回委員会資料

5. 補足資料

3 調査体制



4 委員会名簿等：

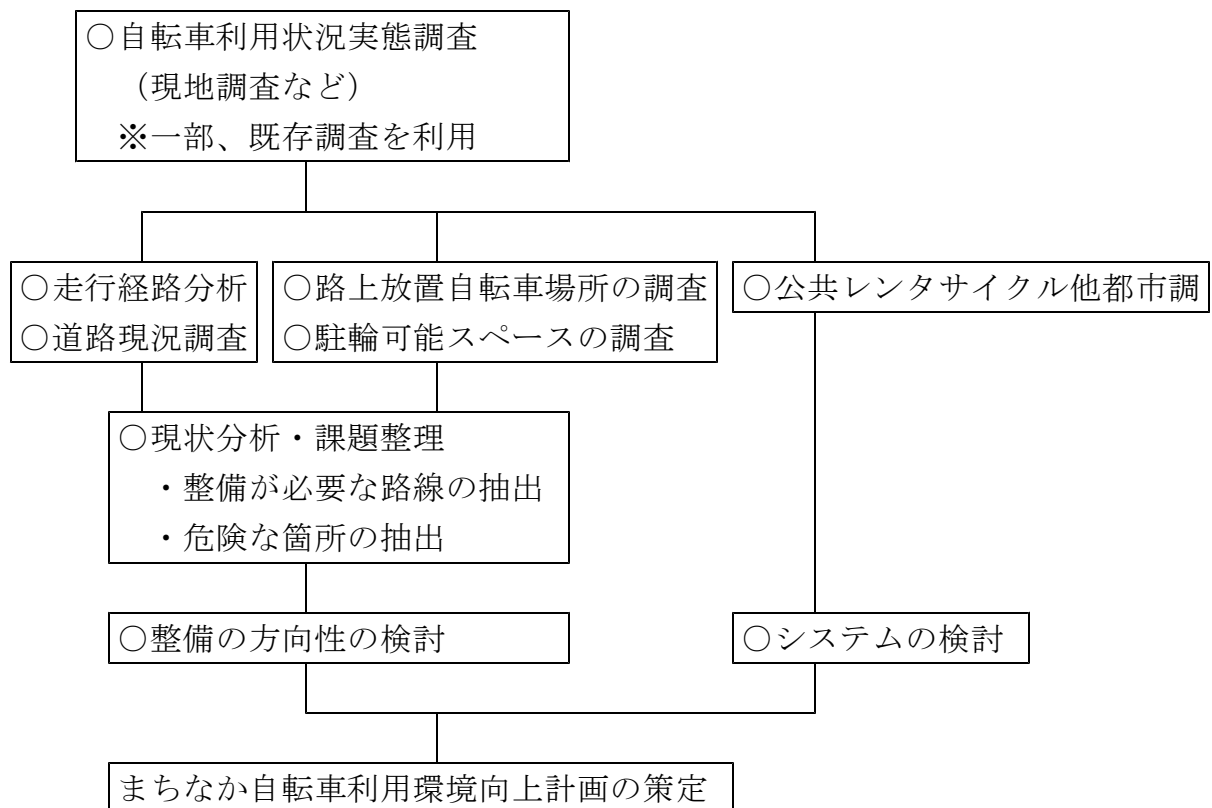
	所属	氏名
委員長	金沢大学大学院自然科学研究科 教授	高山 純一
委員	北陸大学教育能力開発センター 教授	三国 千秋
委員	金沢市町会連合会副会長	中本 次雄
委員	金沢商工会議所地域振興課長	金丸 一彦
委員	金沢市観光協会事務局長	徳田 正克
委員	金沢中警察署交通官	三島 真次
委員	金沢東警察署交通官	大野 立夫
委員	国土交通省金沢河川国道事務所交通対策課長	中川 毅志
委員	石川県土木部道路整備課長	山岸 勇
委員	金沢市都市整備局土木部道路管理課長	今越 寛

II 調査成果

1 調査目的

平成 26 年度の北陸新幹線金沢開業を見据え、二次交通の充実のため自転車の利用を促進することは本市の「歩行者・公共交通優先のまちづくり」の実現に喫緊の課題となっている。そこで金沢駅等交通結節点や観光・商業・業務地区等、本市まちなかの主要拠点をつなぐ自転車走行ネットワークの設定や駐輪スペースの整備の方向性のほか、自転車ルール・マナー向上の意識啓発や自由度の高いレンタサイクルシステムの検討を行い、便利で快適な自転車利用環境向上に関する基本計画を策定する。

2 調査フロー



3 調査圏域図

(1) 計画の区域

- 本計画の検討対象範囲は、「金沢市中心市街地活性化基本計画」(平成19年5月)で定義された「中心市街地(まちなか)」(約860ha)とする。

【本計画の検討対象範囲】



5 調査成果

4. まちなか自転車利用環境向上の基本的な方針

(1) 基本コンセプト

「自転車を安全・快適に利用できるまち・金沢」 の実現を目指す

- 自転車を公共交通と組み合わせた都市交通の一つとして再認識し、金沢のまちの特性に応じた市民・来街者の身近な移動手段として利用できる環境を整える。

(2) 自転車利用環境向上により期待される効果

①交通安全の向上

◇これまで曖昧であった自転車の通行位置の明確化やルール・マナーの意識啓発を行うことで、自転車対歩行者、自転車対クルマの事故を削減する。

②環境負荷の低減

◇二酸化炭素を排出しない自転車の利用を促進することで、マイカーからの利用転換を図るとともに、バスや鉄道との連携により公共交通全体の利用を増進し、まちなかでの移動における環境負荷を低減する。

③市民の健康増進

◇マイカーへの過度な依存体質から脱却し、自転車による移動を生活に取り入れることで、市民の運動不足解消・健康増進を図る。

④まちなかの魅力と回遊性の向上

◇金沢のまちなかを、自転車で安全・快適に巡ることができる環境を整えることにより、安全性・快適性に加えて、自然・歴史・文化などの地域ならではの風情と良さが感じられる環境の創出を図る。



(3) まちなか自転車利用環境向上の4本柱

(1) 「はしる」・・・自転車通行空間整備の方向性

●自転車走行空間の安全性を図る

※幹線道路+裏道からなるネットワークを検討・形成し、優先的に整備
(自転車通行位置の明確化、路面標示等による交通安全対策の検討等)

(2) 「とめる」・・・駐輪環境整備の方向性

●便利で使いやすい駐輪環境の創出を図る

※交通結節点(駅・バス停)、公共公益施設、観光施設、商業施設を中心とした駐輪場の充実、放置自転車が多い箇所等における身近な駐輪スペースの確保など

(3) 「つかう」・・・自転車利用促進の方向性

●公共交通としての自転車利用促進を図る

※公共レンタサイクルの導入検討(公共施設の周辺等利用しやすいサイクルポートの配置、貸出・返却システム、料金体系など)、モビリティマネジメントの推進、自転車マップの作成など

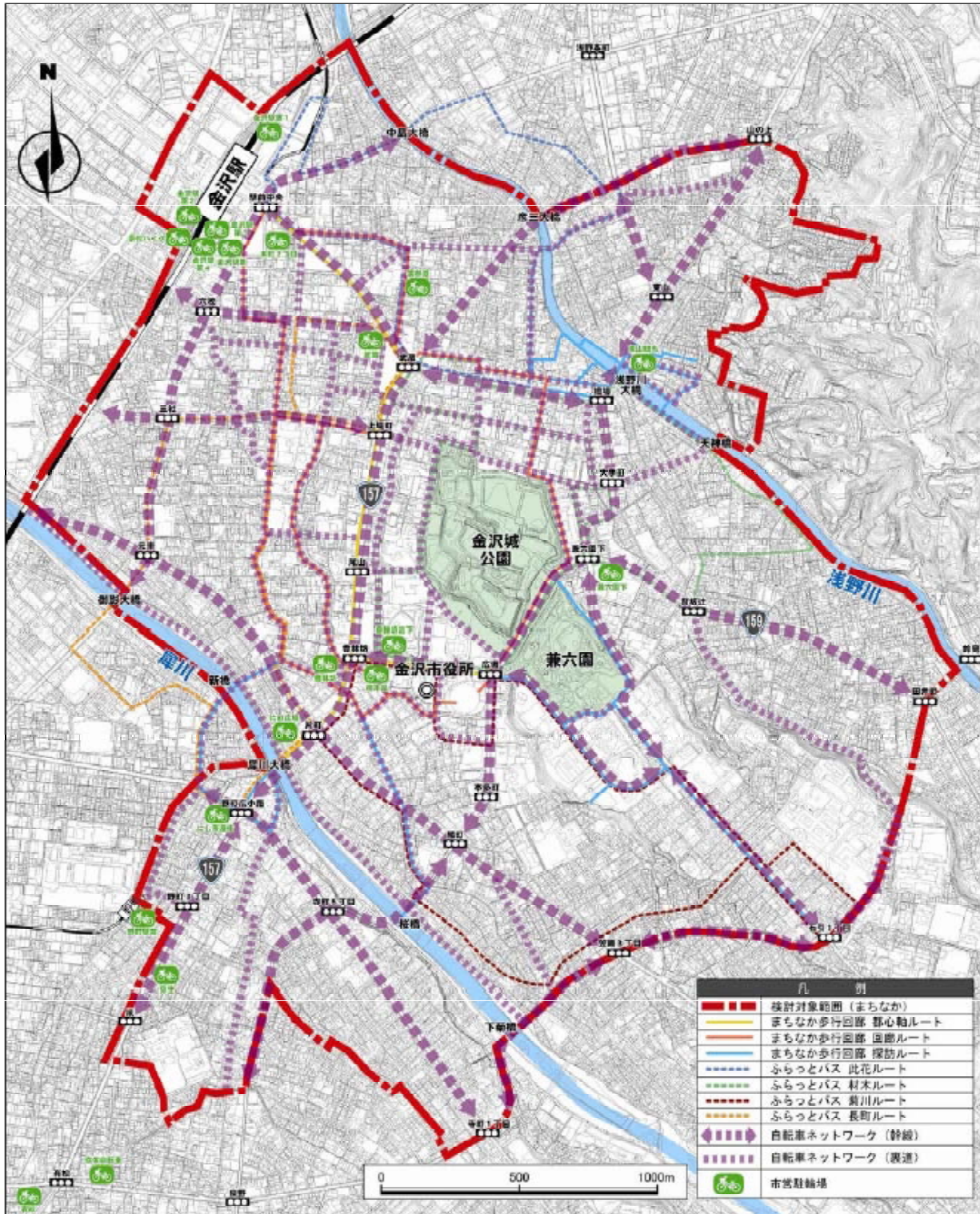
(4) 「まもる」・・・ルール・マナー向上の方向性

●自転車利用者のルール遵守・マナーアップを図る

※市民・行政(国、県、市)・警察・関係機関等の連携による高校生など自転車利用者のルール遵守・マナーアップ活動の展開(役割分担や意識啓発方法の検討など)

4-1. はしる … 自転車通行空間整備の方針

【まちなか自転車ネットワーク】



4-2. とめる … 駐輪環境整備の方針

【新たな駐輪場の整備の方向性】

- 路上や広場等のスペースを活用した小規模な駐輪施設の配置検討
 - ・ 景観面に配慮したデザイン性の高いものを検討
 - ・ 利用者にとって使いやすく、整然と並べられるよう配慮

● 違法駐輪（放置自転車）が目立つ場所

▼リファーレ前



▼リファーレ横



▼武蔵（旧ダイエー裏）



▼豎町商店街



▼片町（パチンコ店前）



▼片町（金劇パシオン前）



▼豎町広場



▼木倉町広場



▼香林坊にぎわい広場



4-3. つかう … 自転車利用促進の方針

(1) 基本的な考え方

- ①市民や来街者が気軽に利用できる公共レンタサイクルシステムの導入について検討する。
- ②あわせて、自転車マップの作成や案内サインの設置、イベント開催等により、自転車の利用促進に向けた情報発信を行う。

(2) 公共レンタサイクルシステムの導入の方向性

- ①本格導入にあたっては、海外の成功事例等を踏まえつつ、24 時間いつでも利用できる無人管理の公共レンタサイクルシステムの構築を目指す。
- ②本格導入に向けて、金沢に見合った事業規模やシステム、利用ニーズ等を把握するための社会実験を実施する。

【公共レンタサイクルシステムの導入に向けて】

●「無人管理の公共レンタサイクルシステム」の導入を目指す

【海外事例からみた主な成功条件】

- ①サイクルポートを高密度に配置
(概ね 300m 間隔 10 箇所 100 台以上の規模)
- ②長時間ほど高額となる料金設定 (短時間返却による自転車シェア)
- ③安全性・耐久性・デザイン性に優れた自転車の使用
- ④ICカード等を活用した貸出・返却・清算が簡単にできるシステム
- ⑤24 時間いつでも利用可能な無人システム (サポートも 24 時間対応)

●金沢ではどのような方法が適しているか

●社会実験等により、市民や来街者のニーズを把握するとともに、金沢に見合った事業規模やシステム等について検証する

▼期待される効果

- ①市民の交通利便性の向上 (個人利用の公共交通の導入)
- ②歩けるまちづくりの推進 (安心して歩ける環境の創出)
- ③北陸新幹線開業を見据えた金沢駅からの二次交通の充実
- ④中心市街地の活性化 (企業や商店との連携)
- ⑤環境負荷の低減 (マイカー利用からの転換促進)

<参考>公共レンタサイクル社会実験の実施方針

●公共レンタサイクル社会実験の実施方針

①実施概要

- ・ポート：10箇所
- ・自転車：100台
- ・期間：平成22年8月～10月にかけて2ヶ月間
- ・時間帯：平日…7:30～20:30（13時間）
休日…9:00～19:00（10時間）

②利用方法

- ・登録料：一日利用200円、定期利用1,000円/月
- ・利用料：最初の30分無料、以降30分ごとに+200円

③システム

- ・ICカード等での個人認証、貸出・返却・決済システムを想定



【公共レンタサイクル社会実験のポート配置案】

